

横浜市立大学 医学部
オープンキャンパス2024
医学情報センター
貴重資料オンライン展示
令和6年7月30日～8月25日

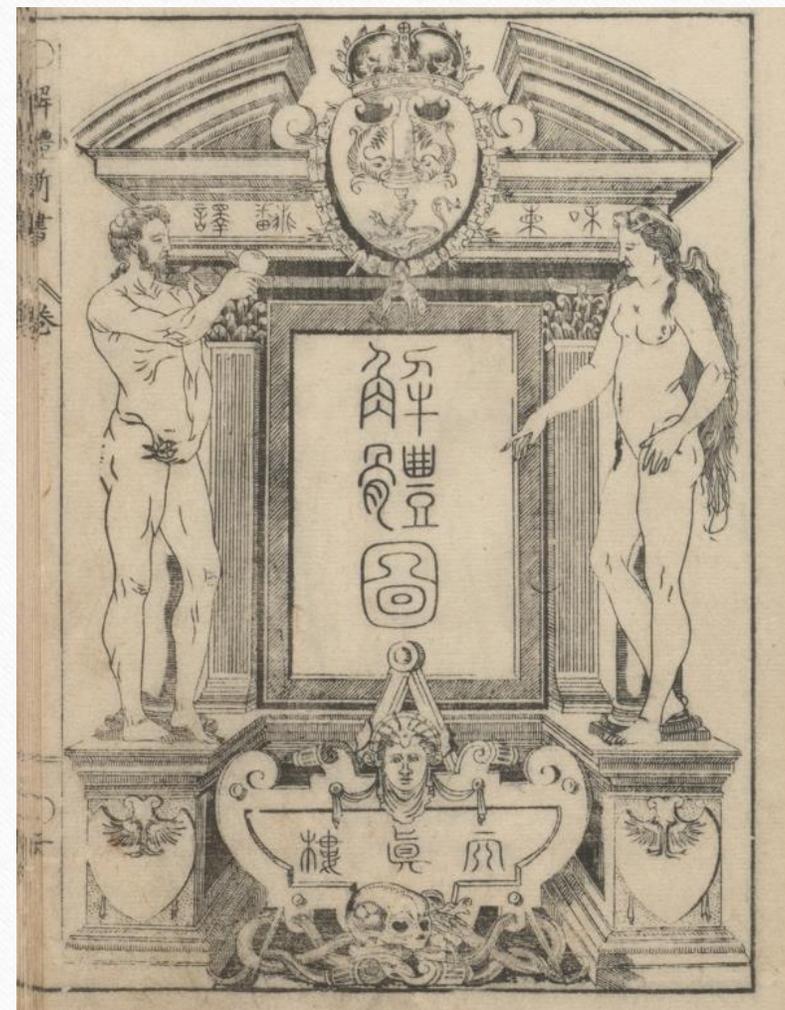
「西洋医学のはじまり」

「近代医学のはじまり」

「看護のはじまり」

3つの“はじまり”をテーマに

医学情報センターが所蔵する貴重資料を紹介します。



解體新書 4巻首 1巻5冊

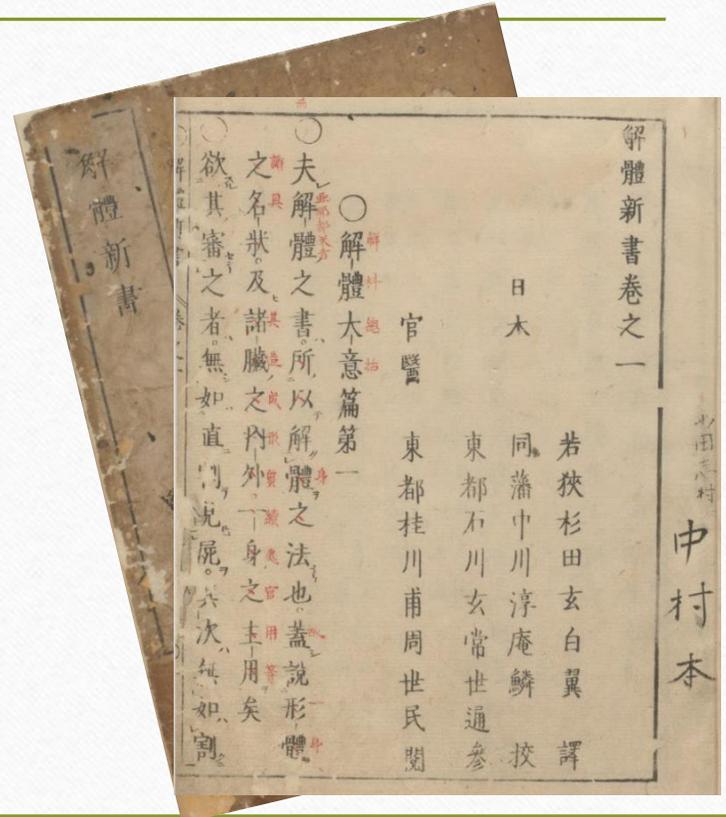
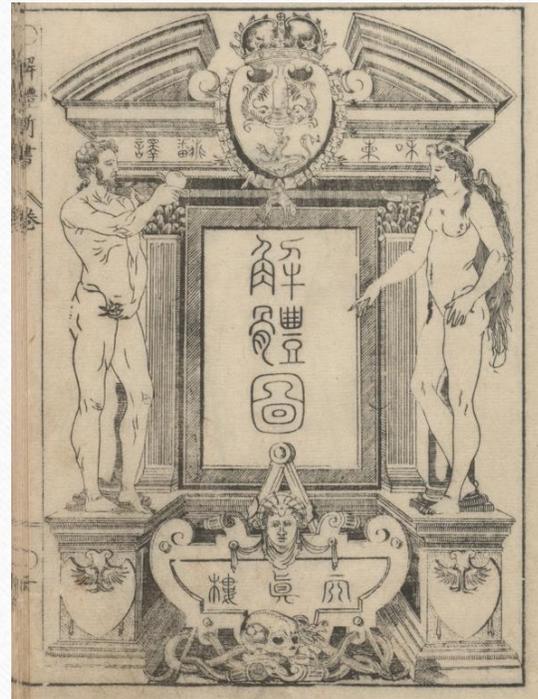
(独) 闕兒武思 [Kulmus]原著；杉田玄白 訳

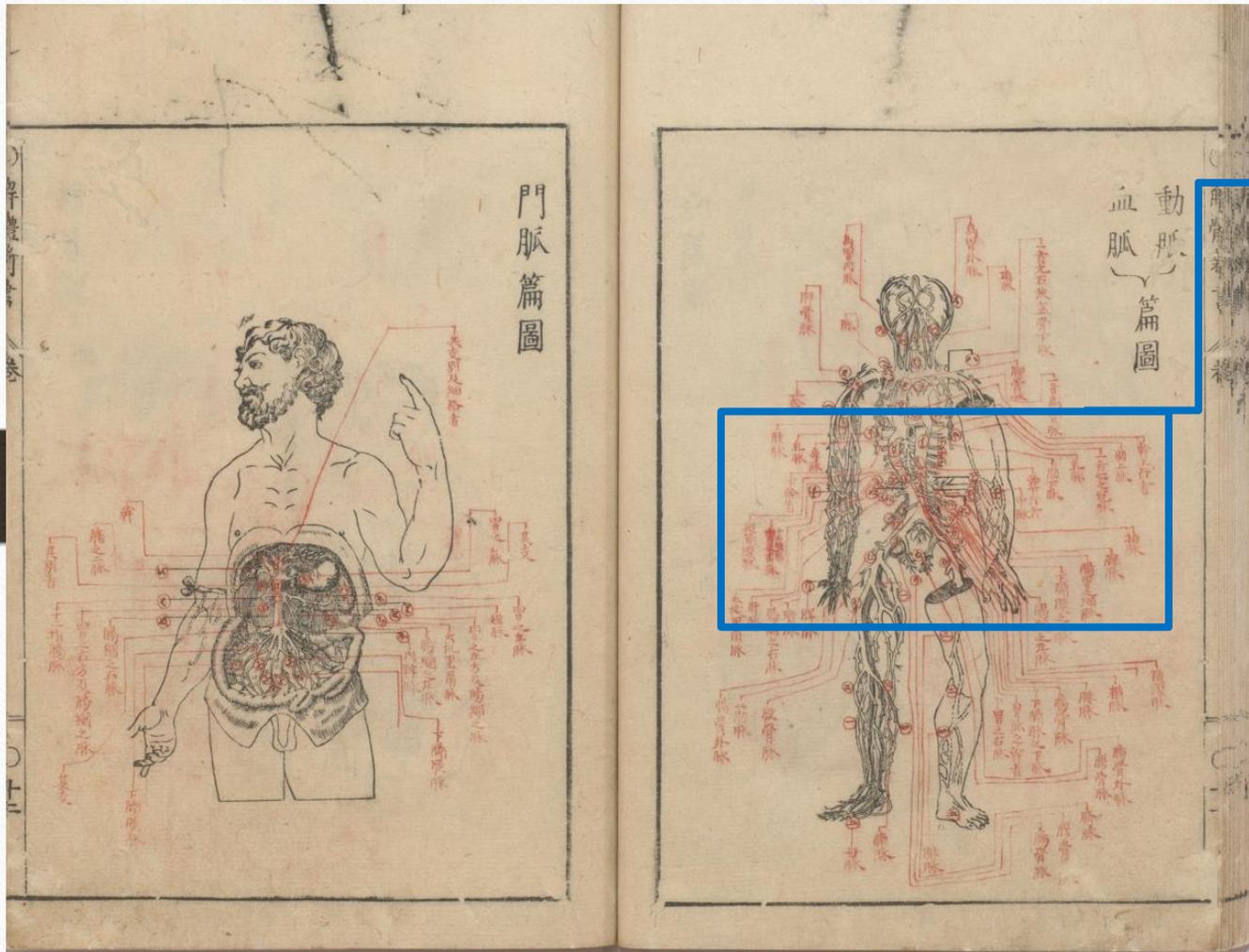
中川淳庵 校 小野田直武 画

東武 須原屋市兵衛 安永3 (1774) 年刊

ドイツ人医師のJohann Adam Kulmusの医学書『Anatomische Tabellen』のオランダ語訳である『Ontleedkundige Tafelen』(ターナル・アトミア)を前野良沢、杉田玄白等が翻訳した図書です。

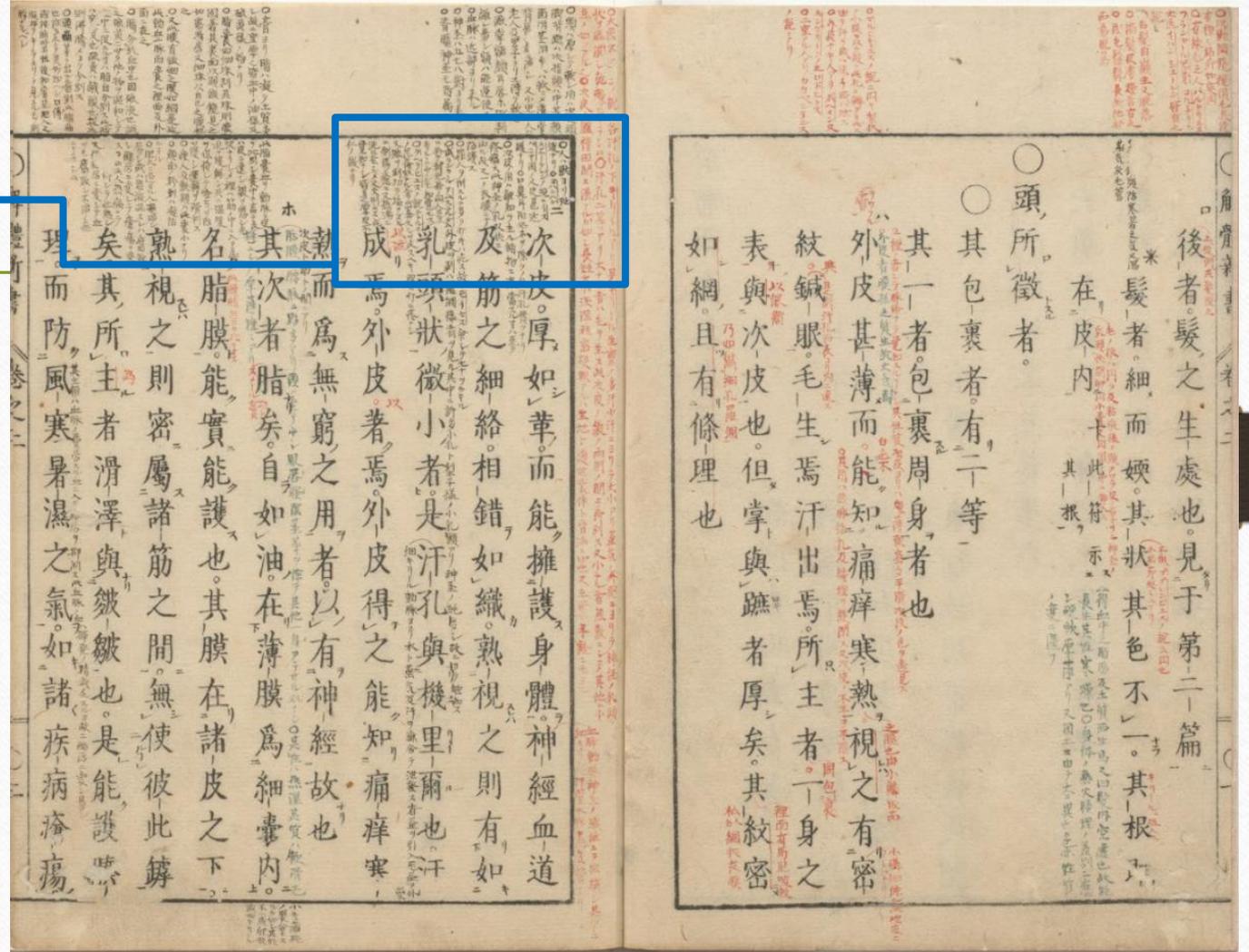
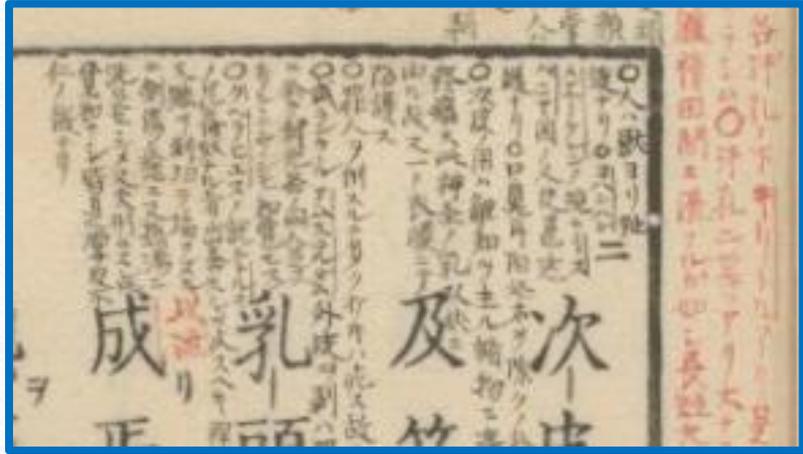
教科書などに掲載され、よく知られている図(中央の画像)は、序図の扉絵です。





医学情報センターには2組の「解体新書」が所蔵されています。そのうちの1組（鈴木文庫本）の特筆すべき点は、膨大な量の「書き込み」です。黒や赤の細かい文字は印刷等ではなく、医学を学ぶ元の所有者※によって細かい筆で手書きされたものです。

※1巻と序図に記名のある「小田志村 中村」氏と考えられます。

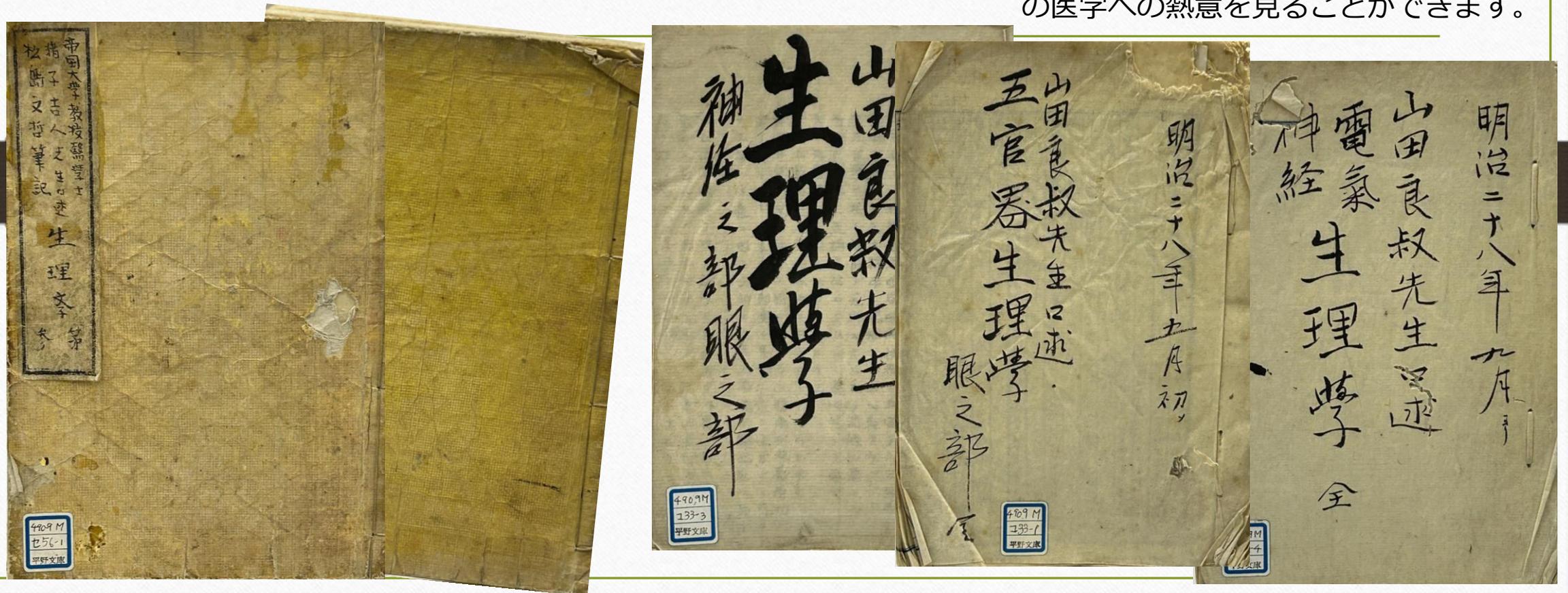


記述（漢文）に対応する日本語や原書の註等が書き込まれ、元の所有者が熱心に勉学に励んだ様子が見て取れます。この書き込みは個人学習のためだけでなく、学んだ知識を持ち帰り、他の人に伝えるための「記録」としての意味もあったといえます。

明治時代の医学生講義ノート

- ・ 生理學：猪子吉人 述、松島文哲 筆記
- ・ 生理學〔講義〕：山田良叔 述、平野周太郎 筆記

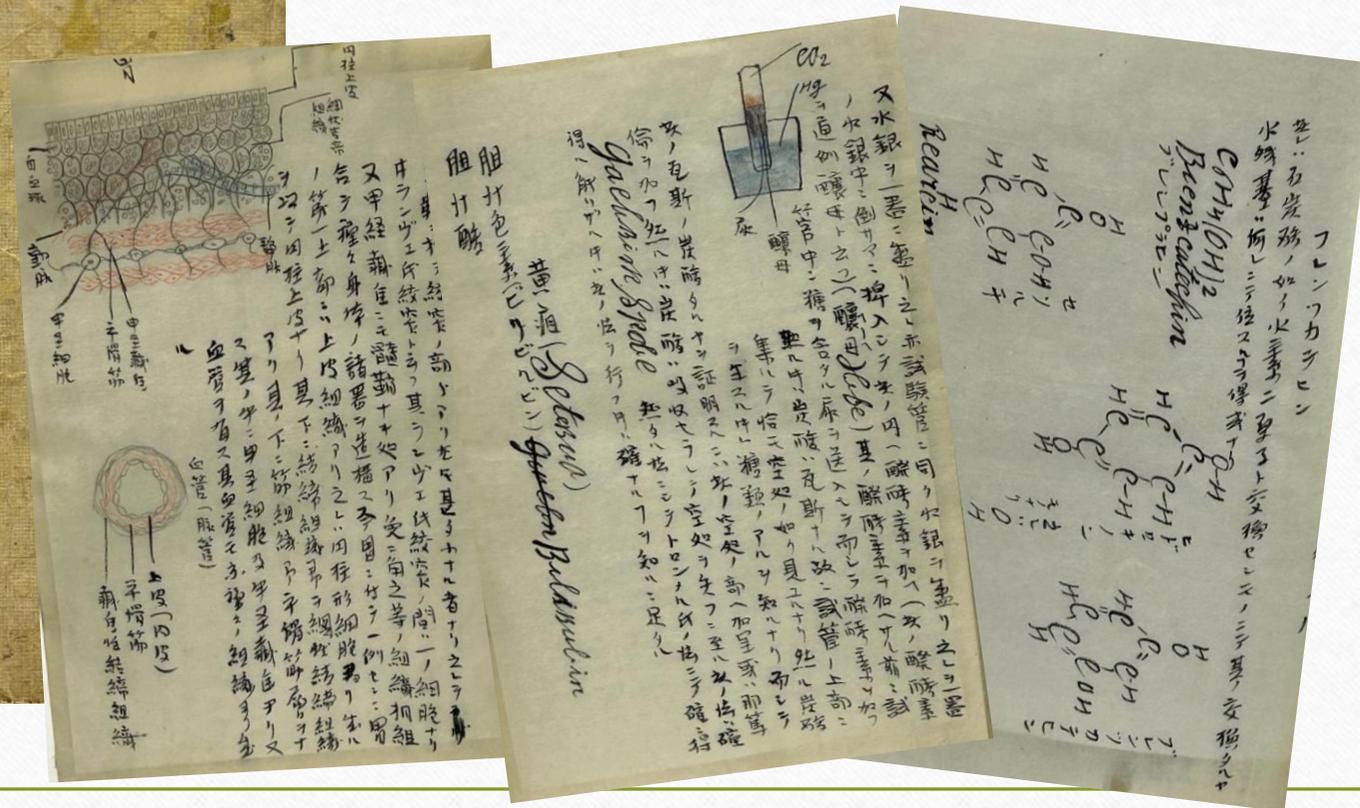
明治時代の医学生が先人の医学者や海外から招聘した研究者の講義を受け、記録したノートです。約120年の時を経ても、墨で記された丁寧な記述、詳細に描かれた図、随所に書き込まれた注釈に、彼らの医学への熱意を見ることができます。



生理學：猪子吉人 述、松島文哲 筆記

※ 済生学舎における講義の筆記録と推定されます。

※ 猪子 吉人 (いのこ きちんど) は明治時代の薬理学者。医学博士。
日本産毒 (キノコ毒、フグ毒) の研究を行いました。

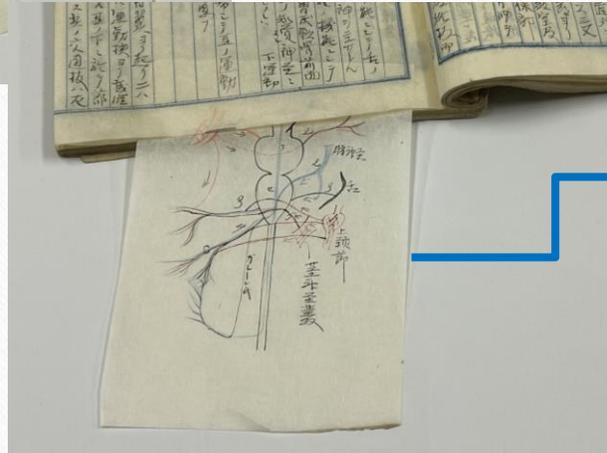
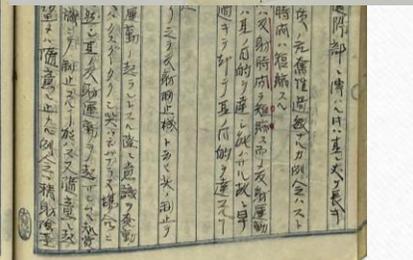
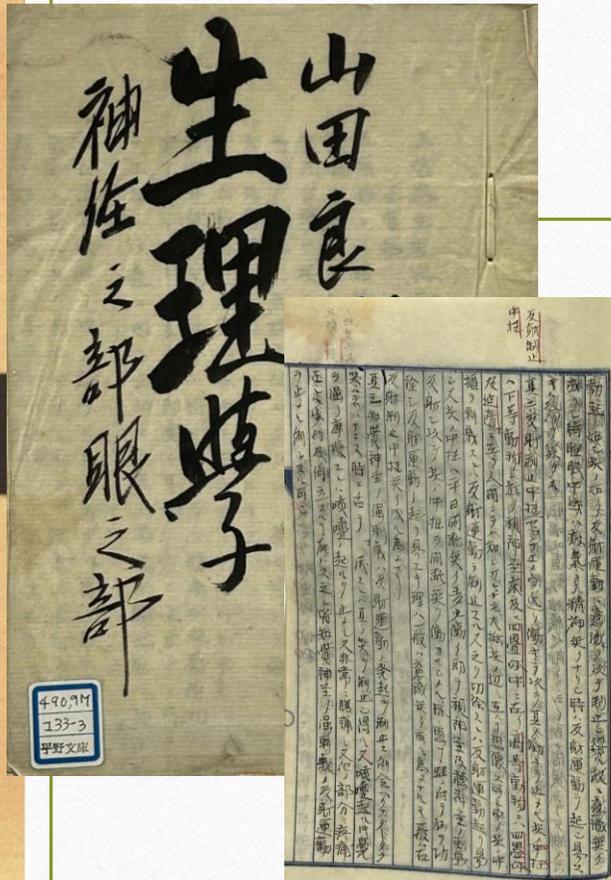


綿密に書かれた文章だけでなく、組織や実験のスケッチ、化学構造式も書き込まれ、講義内容を身に着けたいという意欲が感じられます。

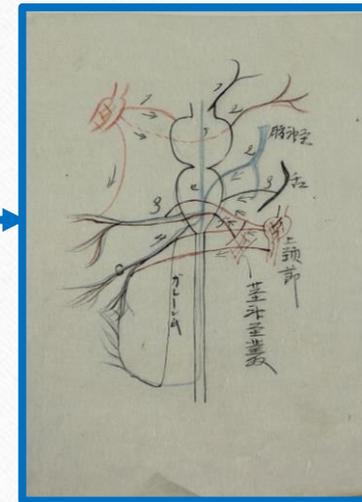
生理學 [講義] : 山田良叔 述、平野周太郎 筆記

※東京医学専門学校講師山田良叔の講義の筆記録

※山田 良叔（やまだりょうしゅく）は明治時代の医学者



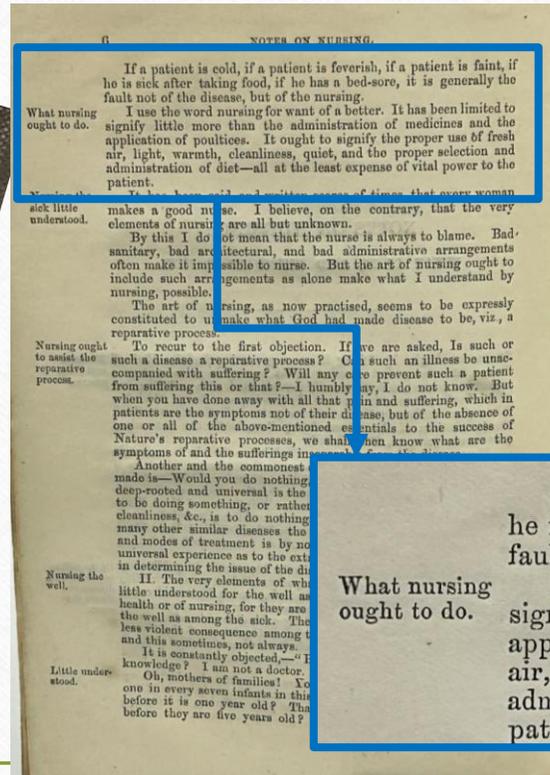
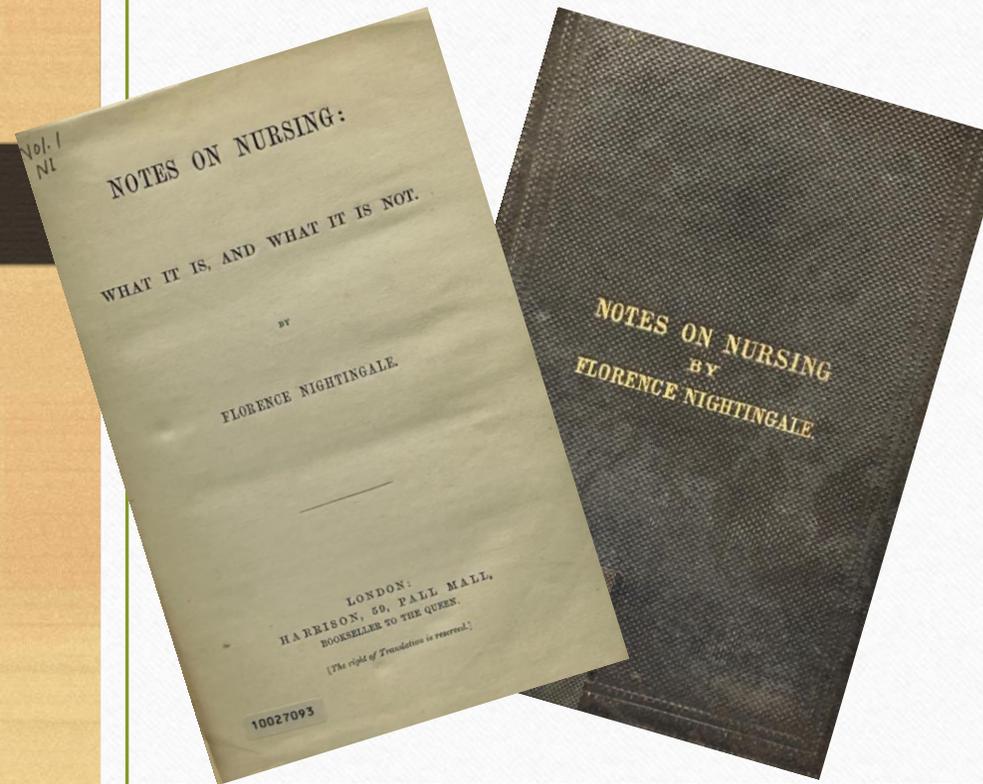
隙間なく書き込まれた文章に講義への熱意が感じられます。
また和綴りの頁の間に記述に関連する図を収納するという工夫も見られます。



Notes on nursing : what it is, and what it is not (看護覚え書)

by Florence Nightingale
Harrison, Bookseller to the Queen, 1860

1859年にフローレンス・ナイチンゲールが、看護師や家庭内で家族を看護する人のために看護について著した書です。今も世界中の看護師を志す人々に読み継がれている古典的名著です。医学情報センター所蔵本は、ごく初期の1860年に発行されたものです。



序章において、看護に求められるすべてのことは患者の生命力の消費を最小限に留めることだと述べられています。

What nursing ought to do.

If a patient is cold, if a patient is feverish, if a patient is faint, if he is sick after taking food, if he has a bed-sore, it is generally the fault not of the disease, but of the nursing.

I use the word nursing for want of a better. It has been limited to signify little more than the administration of medicines and the application of poultices. It ought to signify the proper use of fresh air, light, warmth, cleanliness, quiet, and the proper selection and administration of diet—all at the least expense of vital power to the patient.

参考文献

- 横浜市立大学医学情報センター古醫書目録
大島智夫 横浜市立大学医学情報センター [ほか] 横浜市立大学医学情報センター, 1998.10
- 日本医史学雑誌 第53巻第1号(2007) 114-115
岩崎一, 殿崎正明, 唐澤信安 "済生学舎の山田良叔講師と山田訳「蘭氏生理学」について"
- 日本医史学雑誌 第67巻第4号(2021) 375-397
村松洋 "『解体新書』究理堂系書入れ本について"
- 看護覚え書：看護であること看護でないこと 第8版
フロレンス・ナイチンゲール [著]; 湯楨ます [ほか] 訳 現代社, 2023.1